

# 中野香織

(服飾史家)

美化を拒絶しながら、

多面的な深みで私たちに魅了する

ココ・シャネルについては、虚実ないまぜの本や舞台や映画を通して、多くの人がその生涯や功績を「知って」いる。虚実混交のシャネル像は、かえってシャネルを伝説化することに貢献した。

没後50年、はじめて実証のみに基づくドキュメンタリー作品が登場した。「空白」とされてきた1944年から1957年までのスイス時代の背景に、何があったのか？ 2010年代に世に出た衝撃の書類により、幾多の謎が解明され、シャネルの新たな一面が現れる。

「男と帝国を両方支配できる魅力的な女」と称されたシャネルの晩年は、孤独で頑固。エレガントに見せる術に優れながら、闘志にあふれ手強い。寛大に小切手を切る一方、執念深い。立ち上るシャネル像は、美化を拒絶しながら、多面的な深みで私たちに魅了する。「単純な花の香りではなく、複雑な女の香りがほしい」という要望に応えて生まれた「No.5」生誕100年の年に、この香水に似たシャネル像に迫る映画が公開されることを祝いたい。